

土佐の南国ルネサンス構想

⑧

カーブを曲がってギョッ!とした。
このカンバンは「効果がある」と感じたのでそばに寄って良く見ると、上の「クギ」がはずれて、半回転しただけのものでした。
凸凹になっているに違いないこれからの道のり、「注意しなくてはい」と即座に判断、スピードを落して、ゆっくりすすんでみました。なるほど、これは凸凹だ、市道か、私道か? どうも市道のようなのだが、このカンバンも相当の平期もの。どうやら長い間「補修だけ」の管理に終わっているよう・・・。
しかし、効果だけを考えれば、「逆さカンバン」もいい・・・? ホントにギョッ!!とした。



基本構想の

将来像を検討中

- ▼ 基本構想を二本柱にしています。修正して三本柱にしたそうです。
まっすぐのキョウワを、人とまち、にしています。心、心をもう一本設けて「人・心・まち」の三本柱にしました。当初の「人が元気、ここが元気、まちが元気」にかえしました。そして三つの将来像を、
◆人が輝く夢ロマン人間都市 ◆心が安らぐ健康文化都市 ◆まちが煌(きら)めく産業元気都市
にして、検討しています。
- ▼ タイトルが変わっただけで、中身には変更がないわけですね。
そうです。よりわかりやすくするため、三つに束ねることにしました。詳しくは今月号で特集を組んでみました。
- ▼ 「二つ目の柱の」心が安らぐ健康文化都市」というのは保健・医療・福祉などの分野になりますか。

それに芸術・文化、体育、スポーツを加えた心身の健康です。
市民の価値観に「もの」の豊かさから「こころ」の豊かさを実感できる地域社会を求めようになってきました。
人と人、人と自然、人と社会などとの交流を大切にしながら、心身ともにすこぶる健康な都市づくりが目標です。
市民一人ひとりのライフステージを通じて、心身ともに健康でありたいと思う心を起点にし、地域社会全体の健康



や福祉、文化につなげていくというわけです。
▼ 「そこで「心身が健康で、希望に満ちたまちづくり」の考え方はどうですか。
市民一人ひとりが健康を築き、その活動を通じて生命(いのち)の大切さや生活の豊かさを知るとともに、幸せが実感できるようなまちづくりをめざします。そのため、必要な保健・医療サービスの充実を図っていきます。
次に、福祉関係では「生きがいと安らぎの福祉のまちづくり」をめざします。全国の高齢者が住んでみたい、あつたか南国・福祉のまち」をめざしたいですね。
▼ 高齢者や社会的に弱い立場の人々が、生きる喜びを等しく受けられるような保健・医療・福祉サービスの充実を望みたいですね。
大変重要なことです。そしてまた「行政におんぶにだっこ」だけでなく、ともに支えあう福祉の意識づくり、ボランティア活動など市民の主体的な参加もすすめていかなければなりません。

やまと国サミット



国府の比江庵寺跡には32.4mの五重の塔が建っていたらしい。同じ時期に建築された奈良・法隆寺の五重の塔が32mだから、比江庵寺跡の32.4mの高さは、40cm高いということになる。とすれば、当時の天皇家と同等以上の勢力を持つ一族がいたことになり、天皇家でないとしたら説明がつかなくなる。どうやら、神代考古学の一説として邪馬台国は土佐にあったという説が浮上してきそう。何とすばらしいロマンのあるふるさとではないか、やまと国サミットを開催してはどうか。

(匿名希望)

アイデアポストより

いま部落は、そして……。

ればなりません。
▼ 最後に「芸術・文化の創造とスポーツのまちづくり」の考え方を聞かせてください。
南国市は歴史の宝庫といわれています。豊かな歴史・文化、埋もれた歴史・文化を掘り起こして新たな文化を創造していくことが大切です。広域高速交通の拠点性を生かして、広域的な文化拠点、も目標にしています。

大きなイベントです。そのための施設の整備が大きな課題になってきますね。
▼ 個人の家庭に置きかえてみると家計的にはなかなか無理がいきますが、息子の結婚を契機に思い切ってマイホームを新築する気持で建設してほしいですね。(笑)

サッカー場や体育館は建設しなければなりません。借金も長期分割払いにして、施設も国体だけでなく、後々まで市民が利用しやすい施設にしていけることが大切ですね。施設だけでなく、これを機会にスポーツの人材育成にも力を入れていくことが基本目標になってきます。
今月号は総合計画の基本構想(将来像)を中心に特集しましたので、合わせて市民みんなで考えていたいただきたいと思っています。

同和教育シリーズ

前回に引き続き、同和教育推進講座を受講された方の感想文を紹介していきます。
推進講座を終了して、自分の気持ちを整理し直すきっかけとなったように思います。

市民・県民の意識は? ⑩

野中地区のと
なり、夜光町で育つ。県道の向こうは行かれんと、ヒソヒソ声で言われてきたので、同和地区に対して、どんなところだろう、何かあるのやろ、と、狭い道から先

入観で見えてきました。そんな思いで年を重ねていくうちに同和地区の友だちが結婚差別にあったこと、同和地区の男性と結婚することで、身内から嫌を言われたこと、私のまわりにはそんな問題がいくつもあり、その友だちの悩みをいっしょに考えてきました。
(中略)
私自身、結婚し子どもができて地区内にある〇〇保育所に子どもたちを通わせることになりました。帰りに家を借り、

生活を始めました。「子どもさんごの保育所」(〇〇保育所)、「△△保育所」は定員がいっぱいだったとき、〇〇はまたあいちよったとき、「どこに住みゆが」、「縁向、夫は福井町やけどねえ、縁向のねえ、一良の線路より南側」と人に聞かれて、このように答える私でした。
地区内の友だちの結婚問題をもとに考え、推進講座を受け、部落差別はいかん、部落差別はせられんと思いつけていたのに、私は部落と関係ないんだよ、と伝えている自分にショックでした。やっぱり

私は部落は特別と思っちゃらう。部落の者と思われとうない思いの自分自身に気づきました。今は子どもたちを通して、お母さんたちとも仲良くなり同和地区のおうちに遊びに行くようになりましたが、やっぱり、線路の向こうは行かれん、と言われて育ってきた私には先入観、偏見が残っています。でも、仲良くなったお母さんたちから、自分が受けた差別の話聞き、私自身の気持ちを言い合うちに、それはらうよ、こうじゃないうよ、と言ひ合えるようになって、それは、私自身の気持ち

を直すきっかけとなりました。自分の中で、気づいたことを今は少しづつ我が子に伝え、子どもたちの目で見る社会の様子を私も感じながら生活を送っていたら、自分の日々のくらしを大切にしている中でいろんな矛盾を考慮していきたいと思います。
こんなにたくさんの人たちが、真剣に取り組まんといかんほど、やっぱり部落差別は根づいているんだと思います。わが子が大きくなったころは、貴、推進講座があったんだよ、と話せるような社会であればと思います。